

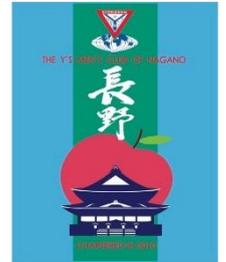


長野ワイズメンズクラブ 会報

2025年5月 第171号

THE Y'S MEN'S CLUB OF NAGANO

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS



2024~2025年度 主題

長野クラブ会長	(代行) 福島貴和	「出会いの種を育み咲かせる」 Let Our Seeds Bloom
あずさ部長	ピーター・マウントフォード (甲府)	「めあて 望み」
東日本区理事	山田公平 (宇都宮)	「ワイズの方向性を見極める」 Our Future Direction
アジア地域会長	ジョアン・ウォン (香港)	「大きなインパクトを起こそう」 Make a Great Impact
国際会長	A. シャナヴァスカン (インド)	「共により良い世界へ」 Together for a Better World

今月の聖句

『すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、他国の言葉で話し出した。』

(新約聖書 使徒言行録 2章4節 ※聖書協会共同訳)

2025年5月 例会案内

- 日時 2025年5月29日(木) 18:30~20:30
※来月より、例会の曜日を第3水→第4木に変更します。
- 会場 レストランやま 380-0834 長野市問御所 1315

例会進行：

- ・開会点鐘 会長
- ・ワイズソング、ワイズの信条
- ・聖書朗読、祈祷
- ・会長あいさつ
- ・ゲスト、ビジター、キャンディデイト紹介 書記
- ・ワイズディナー 食前の祈り：
- ・卓話 卓話者：
- ・諸報告・諸連絡、ハッピーバースデー
- ・ニコニコ献金、会員一言 会計
- ・YMCAの歌
- ・閉会点鐘 会長

★★ 巻頭メッセージ ★★

『今期の振り返り (評議会資料より)』

長野クラブは来年度、設立・チャーター15周年を迎えます。設立してすぐ東日本大震災、そして栄村大震災(長野県北部地震)が発生、近隣のクラブと協力して被災地支援活動をしたり、栄村の復興の後押しにと栄村復興米コシヒカリ例会を開催したりしたことを思い返し、15年の節目は栄村で迎えたいと思いを新たにしました。今後、具体的な活動と絡めてスケジュールに落とし込んでいく予定です。

この15年間でクラブが実施してきた様々な活動はすべて、障がいのある人々、弱い立場に置かれた人々のための活動、それらにかかわる人々をサポートする活動でしたので、クラブの骨となる活動を検討するにあたっては、今後もそのスタンスを持ち続けたいと、皆で改めて願っています。

そのためにも、会員増強は喫緊の課題です。来年も引き続き私達一人ひとりがそれぞれの「出会いの種」を育み咲かせて、私達の思いと願いに共鳴して下さる方々をひとりでも増やし、活動の幅を広げたいと願っています。(湯田代筆)

5月

ハッピーバースデー
なし

แฮปปีเบิร์ธเดย์ ครับ!!

会長 (代行) 福島 貴和
書記 (代行) 倉石 美津子
会計 堀内 雅俊
連絡先 森本 俊子(庶務)
tokoton921@gmail.com

4月のデータ

会員数	7名
例会出席者数	6名
ゲスト	0名
ビジター	0名
例会出席率	85.7%
メーカー	0名
修正出席率	85.7%
ニコニコ献金	実施せず

4月16日例会



第3回あずさ部「富士北麓」評議会 報告

湯田勝彦

5月10日（土）、富士吉田市青少年センター赤い屋根を会場に、今期最後の評議会が開催されました。心の中は今も青少年の私達ワイズメンにはびったりの会場！そんな青少年の私達が、熟成された報告と計画を確認し、今期の活動のまとめと同時に、次期の新体制あずさ部に向けてスタート位置についた気持ちです。

次期のあずさ部は、①年3回の評議会を7月と4月の2回にし、4月の回は部大会を兼ねて開催、②部大会、評議会は「あずさの集い」と呼び、他にも機会を設ける、③事業主査を置かず事業委員を充実させる、④クラブ会長の「会長会」をZoom開催する、など、部としてもダイナミックな運営を始動の予定。長野クラブの（仮称）栄村例会も「あずさの集い」として部としても協力したいとお申し出があります！



バングラデシュでの医療協力ボランティアに行ってきました（4）

湯田勝彦

12月27日（金）～1月3日（金）の、バングラデシュ医療協力ボランティアの話です。前回までは、ジョイラムクラ・キリスト教病院に28日（土）～30日（月）の3泊4日滞在し、伊藤先生（外科、肛門外科）、榊原先生（整形外科、消化器内科）、森元さん（理学療法）による医療協力活動と、PCDP（住民参加型地域開発プログラム）の活動拠点のひとつであるガズニ村の取り組みを見学した話をさせていただきました。

30日、PCDPの見学に行く前、実は一箇所立ち寄ったところがありました。院長のルーシー先生、ご主人である前院長のタポシュ・レマ先生が、病院の退職後に転居するために、ハルアガット郡の静かな郊外に新築中の一軒家です。まだ工事中なのですが、退職後の悠々自適な第二の人生、その一方で、お二人を訪ねてくるお客様が多いのを見越してか、夫婦二人暮らしとは思えない部屋数と広さのある2階建ての広い家。屋根の上に輝く星の飾りが、みどり子イエスの誕生を知らせる星を思い起こさせます。写真をお見せします。



その日の夜は、ルーシー先生とタポシュ先生のお宅に招かれて、フェ

アウェルディナー。用意された食事は、ガロ族のお祝い料理「ワック・プラー・カレー」という白い豚肉のカレーをはじめ、豪華な料理の数々。食事の前には、タポシュ先生の術後のお見舞い金を渡すことができました。思い出話に花が咲き、あっという間に夜も更けていきました。



重要なことをもうひとつ。29日（日）朝、JHP（ジョイラムクラヘルスプロジェクト）の総責任者であるタルン常務理事を表敬訪問し、今回の医療協力の目的のひとつでもある寄付金をお渡しすることができました。

また、30日（月）朝には、JHPの財務責任者であり、病院の事務長でもあるアングルさんに会い、今回の滞在の諸費用をお支払いしました。

31日（火）朝、いつものように病棟回診を終え、名残惜しいジョイラムクラを後にして、ダッカに向けて出発しました。ありがとうジョイラムクラ！

次回こそ、大都会ダッカで活躍されているラーマン医師の話をします。



山梨YMCAだより

創立 79 周年記念早天祈禱会のご報告

総主事 中田 純子

5月1日(月)、本館グローバルコミュニティセンター3階「大澤英二記念ホール ベテル」にて、「創立 79 周年記念早天祈禱会」を開催いたしました。歴代総主事をはじめ、山梨YMCAに連なる皆様 25 名が集い、79 年の歩みを喜びと感謝を分かち合うひとときとなりました。

山梨 YMCA は、戦後の混乱が残る 1946 年 5 月 1 日、国内 13 番目の都市 YMCA として誕生しました。創設にあたっては初代理事長・市川規一氏の自宅を開放しての事務所設置など、地域の希望となる歩みが始まりました。会館建設や多様なプログラムの展開、幾度もの移転と発展を経て、2014 年には公益財団法人化、2020 年にはグローバルコミュニティセンターの竣工と、地域とともに歩み続けてきました。

これまで山梨 YMCA は、語学、野外活動、保育、高齢者・障がい児者支援など、すべての人が共生できる地域社会の実現を目指して事業を展開してきました。ワイズメンズクラブのチャリティーランやチャリティーバザーの協力、「銀河鉄道の森プロジェクト」などの自然体験や里山再生、お正月遊び体験、そしてユースリーダー育成にも連携し力を注いでいます。

YMCA の一番の願いは、集うすべての子どもや若者、一人ひとりが自分の価値を見出し、仲間とつながり、希望をもって自分らしい花を咲かせられる社会を築くことです。そのために、YMCA が「みつかる。つながる。よくなっていく。」かけがえない場所となり、誰もが安心して成長できる環境を守り続けたいと心から願っています。

創立 79 周年という節目を迎え、これまで支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。山梨 YMCA は、これからも地域に根ざした活動を続け、未来へ向けて新たな一歩を踏み出してまいります。

◆◇長野クラブ 2025-2026 新体制が決まりました◆◇

- | | |
|-----------|--------------------|
| ▼会長 湯田勝彦 | ▼例会 毎月第4木曜日 18:30~ |
| ▼副会長 福島貴和 | ▼ブリテン編集 湯田 |
| ▼書記 森本俊子 | ▼目標 1 全員参加のクラブ運営! |
| ▼会計 堀内雅俊 | ▼目標 2 15周年例会は栄村で! |

主な記念例会、行事などの予定

6/7(土) 第 28 回東日本区大会 (於: 宇都宮)

※湯田は東日本区合奏・合唱団の練習に参加するため前泊しています。宇都宮でお会いしましょう!

6/14(土) 第 28 回西日本区大会 (於: 神戸)

6/26(木) 18:30~20:30 6 月例会 (於: レストランやま)

※例会は 6 月から、第 4 木曜日 18:30~に変更します。

8/1(金)~3(日) 第 31 回アジア太平洋地域大会 (於: 熊本)

※日本で開催される国際大会。参加可能ならぜひ!

8/20(木) 東日本区オリジナルフォトカレンダーの写真

応募締切日 ※素敵な写真を撮影された方はぜひ応募を。

★リレーエッセイ☆

私が京大 IPS 細胞研究財団への寄付を続けるわけ

森本俊子

実家の墓は、現在八ヶ岳の麓「鈴蘭の里」の近くにあり、父と母が眠っています。神奈川に住む弟と約束して墓参りに行ったある日のこと、彼が「母さん、僕も母さんと同じ病気になってしまったよ」と告げるではありませんか。びっくりしました。

横浜のマンションから神奈川相模原市に小さな家を建てたのも、当時パーキンソン症候群と診断された母に、好きな土いじりをしてもらいたくてでした。小さな庭にバラをいっぱい作りました。奥様の闘病に寄り添っておられるという絵描きさんが、花の季節にはお二人で毎日の様に訪ねて見えて、庭先でお茶を飲んだり写生をしたりして過ごされたと、母も喜んでおりました。メダカを飼ったり、室内犬を飼ったり、穏やかに暮らしていました。

母は、発病から 5 年くらいはそんな暮らしでしたが、やがて日常生活も介助者なしでは大変になり、要介護 5 になり、亡くなる一年ほど前には入退院も繰り返し、私も定年退職後は週に一、二日か二週に三、四日、訪問看護師さんやお医者さんとは別に、長野から片道 4 時間をかけて通っていました。そんな折、ワイズメンズクラブにも入会することになったのです。

そんなわけで、長く母の介護をしてくれた弟が、母と同じ病にかかっていると知った時、私は困惑しました。今、彼は東京信濃町の慶応病院に定期的に通って、病気が進まないように治療中です。

5 年前、慶応病院では、iPS 細胞の治療を取り入れていると聞いて、その研究に力を注いでいる京都大学 iPS 細胞研究財団に、毎月 1000 円の寄付をしています。すでに 3 万人の寄付者があり、山中伸弥理事長が精力的に寄付集めに奔走しています。治療の結果が出て、供用になっている病もあると聞きます。より多くの病に対して広く iPS 細胞が使えるように、財団は頑張っています。5 年ほど前に、医者の友達が「脊髄損傷で車いす生活の人も 2000 万円で歩けるようになれそう」と言っていたのも、関係があるのでしょうか。研究所の呼びかけの主眼は「iPS 細胞の産業化」です。役に立つ細胞を安く、安定的に医療者へ提供したい、という願いを込めています。



墓参りの帰りに見た故郷、諏訪湖

3 万人が 4 万、5 万、やがては寄付に頼らなくてもいいように、そして多くの難病といわれる病の多くが治る病気となりますように、という願いを日々実行に移している私です。

次こそは、福島さんのリレーエッセイ、お願いします。

編集後記

ワイズ短歌を三首。▼あずさ部長 今日八王子 明日甲府 水曜長野 土曜松本 ▼帯広の 東日本区大会は会場向かう前に 豚丼 ▼毎月の 例会楽し 長野クラブ 雑談こそが 宝箱かな ▼肩肘張らずに、本当に気楽に、短歌や川柳を楽しんでみませんか? (湯田)